

‘湘南一本’の作期拡大

‘湘南一本’の収穫期を前進させるため、10月中旬から1月にかけては種し、無加温ハウスで連結紙筒育苗（2粒まき）した後、定植時から5月上旬まで継続してトンネル被覆すると、生育が促進されるとともに抽だいも効果的に抑制されます。その結果、7月上旬から収穫でき、従来作型と組み合わせることによって作期を翌年2月までの8ヶ月に拡大できます。

なお、3月上旬に葉鞘径が6mm以下であれば、高温処理の有無にかかわらず抽だいしません。6mm以上あっても9月下旬は種なら、5月上旬までトンネル被覆することにより、7月には花茎側芽が収穫できます。

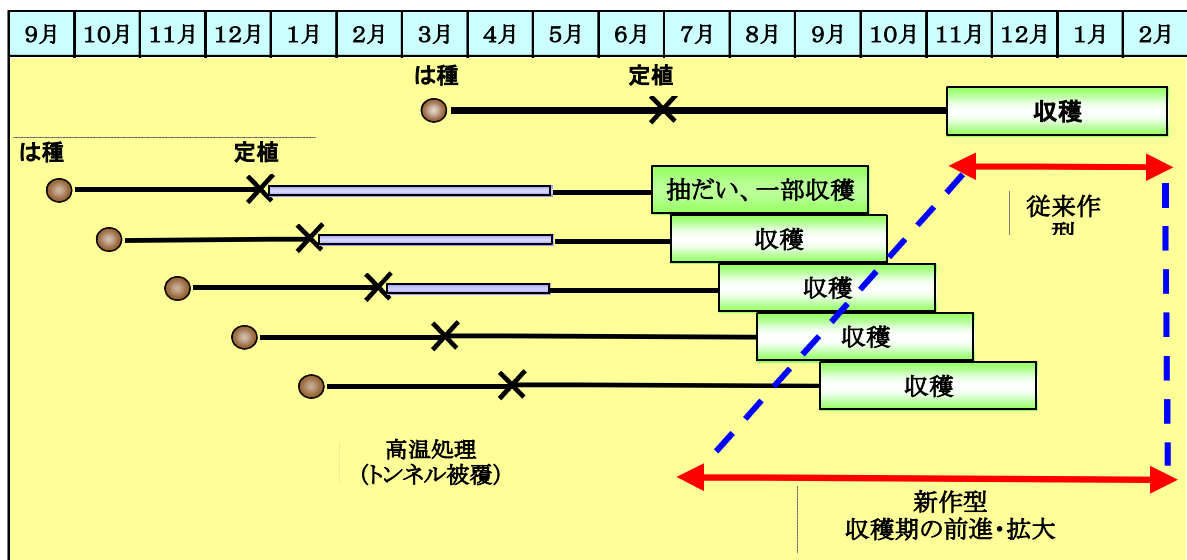


図1 ‘湘南一本’の収穫時栽培歴

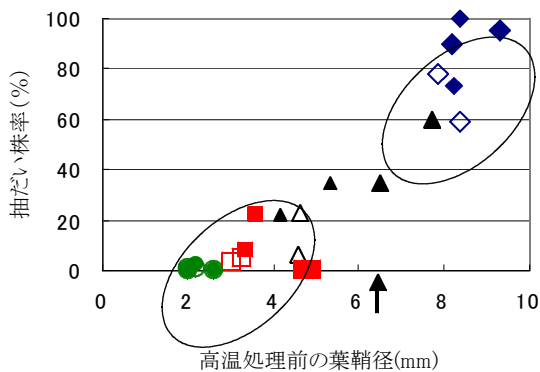


図2 2004年、2005年の高温処理前の葉鞘径とその後の抽だい株率との関係

- ◇ 9月高温処理 □ 11月高温処理
- ◆ 9月無処理 ■ 11月無処理
- △ 10月高温処理 ○ 12月高温処理
- ▲ 10月無処理 ● 12月無処理



図3 トンネル被覆したときの生育状況